

2012年1月20日

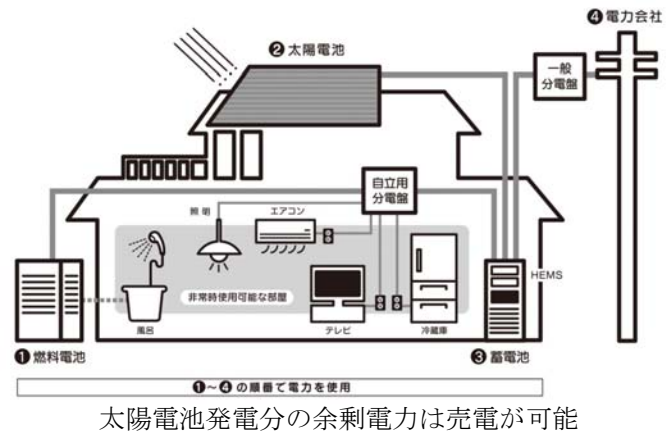
各位

積水ハウス株式会社

**積水ハウスの先進のスマートハウス「グリーンファースト ハイブリッド」が
岐阜県のエネルギー地産地消モデル(次世代エネルギーインフラ)に選定**

積水ハウス株式会社（本社：大阪市北区、社長：阿部俊則）は、岐阜県が全国に先駆けて推進する、災害にも強く、持続可能なエネルギーの地産地消を目指した「次世代エネルギーインフラ」の導入モデル事業費補助金の補助事業者を選定されました。新築注文住宅で補助対象になったのは、当社物件のみで、3電池（太陽電池・燃料電池・蓄電池）を連動制御するエネルギーマネジメントシステムを備え、非常時にも電気のある暮らしを提供する先進のスマートハウス「グリーンファーストハイブリッド」が評価されたものです。

積水ハウスが2011年8月に発売を開始した「グリーンファーストハイブリッド」は、安全・安心・快適に暮らしながら、大幅な節電を可能にし、日中は電力を供給する“街の発電所”となって電力不足に貢献する、時代のニーズに応える商品です。太陽電池・燃料電池・蓄電池を組み合わせることで、非常時でも住宅設計時に予め設定したコンセントや照明などがそのまま使え、いつも電気のある安心の暮らしを実現します。



今般、岐阜県が設定した補助金制度は、補助対象設備を「太陽光発電（トップランナー製品）、燃料電池等のコジェネレーション及び蓄電池を基本に構成し、適切に制御することにより、主に設置した施設の自家用（事業者にあつては業務用）にエネルギーを消費するシステム」と定め、各種要件を満たせば「次世代エネルギーインフラ」を整備するために必要な経費の半分（補助限度額600万円）を補助するという画期的な制度です。先進のスマートハウスである「グリーンファーストハイブリッド」は当該要件を満たすもので、今後5年間を目途にエネルギー需給状況等のデータを提供することになります。

東日本大震災以降、住まいの安全・安心やエネルギー問題に対する関心が一気に高まりました。地震対策への関心の高まりから、積水ハウスオリジナルの制震システム「シーカス」の受注が急増し、断熱性・気密性に優れた高品質な住宅に太陽電池または燃料電池を設置した環境配慮型住宅「グリーンファースト」の戸建住宅受注全体に占める割合が8割近くに達しています。

今後も「グリーンファースト」戦略を積極的に推進するとともに、スマートハウス先進企業として、産官学と連携して取り組み、スマートシティやスマートタウンの早期実現に努めてまいります。